

## 中学校 特別活動 部会

部会長名 福智町立赤池中学校 校長 春永 功次郎

実践者名 福智町立赤池中学校 教諭 原田 雅貴

### 1 研究主題

生徒の自治的能力を育むための指導  
～自他への働きかけを通して～

### 2 主題設定の理由

#### (1) 社会の要請から

人工知能（AI）の飛躍的な発達が進むこれからの社会。人工知能が得た知識を活用して新たな考えを導き出したり、単純作業やマニュアル通りの仕事は機械に置き換わったりと、私たちの将来はこれまでと違ったものになることが予想される。だからこそ、私たち人の良さを生かした仕事や、倫理的・道徳的な価値観などがより一層重要視されていく社会になっていくと考えられる。そこで、これからの未来を担うであろう生徒たちには、将来の社会で活躍できるように必要な力を身につけていかなければならない。人と人がかかわることで生まれるコミュニケーション能力や、お互いを思いやる気持ち、様々な人と意見を交わして合意形成していく過程など、人工知能では獲得するのが困難である、人であるものの価値について学校教育活動で生徒に育んでいく必要がある。そこで、生徒たちが共に学ぶ学級の中での自分、学級と自分のかかわり方の中で、自分や他者の課題を発見し、それを解決するためにどうすればいいか考え、実践し、その評価をし、また取り組むPDCAサイクルを回していく必要があると考えられる。

#### (2) 学校教育目標・目指す生徒像から

学校教育目標

夢の実現！！夢をもち、未来をたくましく生き抜く創造者

目指す生徒像

何をすべきか考え、心で感じ、自らの責任で判断し、自らの言葉で表現し、果敢に挑戦して人生を切り拓く

○既存の知識・技能を他の学習や生活の場面で活用しようとする生徒

○思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造しようとする生徒

○学習の自己調整を図り、粘り強い取り組みを行おうとする生徒

#### (3) 生徒の実態

本学級の生徒は、男子 19 名、女子 17 名の計 36 名である。学級について「良い所」、「課題」の 2 項目のアンケートを実施した。「良い所」に関しては、「元気がいい・明るい所」が約 41%、「仲の良い所」が約 34%と、約 7 割の生徒が学級の雰囲気을挙げている。一方で、「課題」に関しては、「授業中の私語・メリハリ」が約 62%と、クラスの過

半数以上が授業中の私語やメリハリに困り感を抱いている。また、クラスの約 38%の生徒は課題と考えていない。

【表 1】学級アンケートの結果

|     | 項目          | 割合  |    | 項目          | 割合  |
|-----|-------------|-----|----|-------------|-----|
| 良い所 | 元気がいい・明るい   | 41% | 課題 | 授業中の私語・メリハリ | 62% |
|     | 仲が良い        | 34% |    | 暴言、言葉遣い     | 10% |
|     | 協力できる・団結力   | 17% |    | チャイム席       | 7%  |
|     | 授業中の発言や行動   | 10% |    | 提出物         | 3%  |
|     | 様々な意見が出しあえる | 10% |    | 整理整頓        | 3%  |
|     | やるときはちゃんとやる | 7%  |    |             |     |
|     | ありがとうを言える   | 7%  |    |             |     |
|     | その他         | 21% |    |             |     |

### 3 主題の意味

#### (1) 主題について

「自治的能力」とは、生徒が自分たちで課題を見つけ、その課題を自分たちの力で解決しようと考え、実践していく力のことである。

#### (2) 副主題について

「自他への働きかけ」とは、学級の課題を改善するときの2つの視点のことである。1つ目は、学級の課題を解決するために個人が自らの言動を律する自己指導能力のことを指す。2つ目は、学級の課題を解決するために個人が他者の言動を律するための働きかけを指す。

### 4 研究の目標

音楽学習発表会に向けた取組を通して、生徒たちが自分たちで学級の課題に気づき、改善を図る自治的能力の育成を目指す。

### 5 研究仮説

音楽学習発表会を成功させるために、生徒たちが自分たちで学級の課題に気づき、学級の課題を解決するために自分自身が取り組むこと、学級の仲間同士で取り組むことの2つの視点から改善方法を考え、実践していくことで生徒たちの自治的能力を育成することができるであろう。

### 6 研究の計画（授業の計画）

#### (1) 題材名「集団生活の向上 音楽学習発表会の取組」

#### (2) 単元の目標

- 学級における集団行動や自律的な言動をとることの意義を理解し、音楽学習発表会に向けて大切になることを理解し身につけることができる。（知識及び技能）
- 学級や自己の言動、人間関係をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- 音楽学習発表会に向けた取組を通して身に付けたことを生かして、人間関係をよりよく形成し、他者と協働して学級や自己の課題を解決しようとすることができる。  
(学びに向かう力、人間性等)

### (3) 指導計画

|   | 学習活動・内容   | 指導上の留意点  | 日時          |
|---|---|--|-------------|
| 事前の活動   | ○学級会に向けて、司会グループの打合せ<br>・学級の現状の共有 ・役割分担<br>・話し合いの進め方の確認<br>《学級会》                               | ○夏休みが近づき、気持ちが緩みだしがちなこの時期に2学期に向けて意識を高めていく必要性を共有させる。                                   | 7/10<br>放課後 |
|   | ◎2学期の学級の行動目標を立てる。<br>柱1 学級の課題<br>柱2 学級の行動目標<br>柱3 行動目標の具体化<br>・メリハリとは何かなど                     | ○学級目標「漸進」の達成に近づくためにという視点で、話し合いを進めさせる。<br>○行動目標の理解を深めるために、行動目標の達成された学級の姿についても話し合わせる。  | 7/11        |
|   | ○学級アンケートを書く。<br>・学級の良いところ、課題  | ○2学期が始まり、行動目標が達成できているのかについて振り返る場を設定する。   | 9/6         |
|   | ○学級アンケートの結果を教室に掲示してあるのを見る。<br>○学級会に向けて、司会グループの打合せ<br>・学級の課題の共有 ・役割分担<br>・話し合いの柱決め<br>《学級会》    | ○学級の課題を共有することができるように、アンケート結果を掲示する。<br>○学級の課題について深く考えることができるように、司会グループともに話し合いの柱を設定する。 | 帰りの会<br>9/9 |
| ◎学級の課題を解決するために大切なことについて考える。<br>柱1 なぜ課題が改善されていないのか | ○学級一人一人の思いを共有するために、課題について深く話し合わせる。<br>○学級の課題を自分事として考えさせるために、自分自身で取り組む「個人」という視点と、学級の仲間に働きかける「全 | 9/13   |             |

|                       |   |   |   |
|-----------------------|---|---|---|
|                       | <p>柱2 課題を改善する理由<br/>柱3 個人でできること<br/>柱4 全員で取り組めること</p> <p>○学級会に向けて、司会グループの打合せ<br/>・前回の話し合いの振り返り<br/>・話し合いの柱決め</p> <p>《学級会》<br/>◎音楽学習発表会のスローガンを立てる。<br/>柱 「キーワード」を踏まえたスローガンを立てよう。</p> <p>○学級会に向けて、司会グループの打合せ<br/>・課題の設定<br/>・話し合いのルール決め</p> | <p>員」という視点で話し合わせる。</p> <p>○音楽学習発表会のスローガンを立てる際の視点をもたせるために、前回の話し合いででてきた大切なことに関連するキーワードを挙げさせる。</p> <p>○キーワードを達成できるようなスローガンを立てさせるために、班で話し合わせるにそれらの視点で考えさせる。</p> <p>○去年の音楽学習発表会の練習中の様子や、今のまま練習した時の様子を想定させ、練習時のルール設定の必要性に気づかせる。</p> | <p>9/19</p> <p>9/25<br/>放 課<br/>後</p> <p>9/20</p> <p>9/25<br/>放 課<br/>後</p> |
| 本<br>時                | <p>《学級会》<br/>◎音楽学習発表会の練習のときのルールをつくる。<br/>柱 個人でできること<br/>柱 全員で取り組めること</p>  | <p>○2学期の行動目標や、スローガン決めの時の学級会で決めたことを意識させる。</p>  | 9/26  |
| 事<br>後<br>の<br>活<br>動 | <p>○キャリアパスポートで、音楽学習発表会の取り組み方や学びについて振り返りを行う。</p>   | <p>○自分の成長や、これまで取り組んできたことを振り返らせる場を設定する。</p>  | 10/25   |

7 指導の実際（本時） 令和6年9月26日（木）第6校時 於 2年2組教室

(1) ねらい

音楽学習発表会スローガン「青春応歌～心を一つに～」を達成するために、個人・全員でできることという視点で練習のルールを、他者と協働して合意形成したり、意思決定したりすることができる。

(2) 活動展開計画

第5回 学級会計画

【議題】

「思いやり・団結」をもつために、音楽学習発表会の練習のルールを決めよう。

【提案理由】

前回の学級会で、学級のスローガンは「青春応歌～心を一つに～」に決定した。しかし、昨年の練習や今の学級の様子から、「私語で指示が通らない」、「移動が遅い」、「歌ったり並んだりするときに笑う」といった課題が考えられる。そこで、スローガンを立てるときにキーワードとして考えた「思いやり」・「団結」を忘れずに、練習のルールを決めたい。

【めあて】

班の中で、意見をだしやすい雰囲気をつくろう。

【話合いのルール】

- ① 関係のない話をしない。
- ② 話をしている人の方を向く。
- ③ 自分の班の人と話し合う。
- ④ 話をしている人の話を最後まで聴く。

【話合いの柱】

柱1 個人でできる音楽学習発表会の練習のルールを立てよう。

柱2 全員で取り組める音楽学習発表会の練習のルールを立てよう。

【役割】

議長・副議長・黒板書記・ノート書記・タイムキーパー

| 活動内容   | 指導上の留意点  | 評価規準   |
|--|--|--|
| 1 始めの言葉<br>2 司会グループの紹介<br>3 議題の確認と提案理由<br>4 めあてと話合いのルールの共有<br>5 議題について話し合う。<br>〔柱1〕<br>個人でできる音楽学習発表会の練習のルールを決める。<br>(1)個人で考える。<br>(2)班で理由とともに考える。<br>(3)全体で共有する。<br>(4)どの意見にするか選ぶ方法を決める。 | ○話合いが円滑に進むように、大まかな学級会の流れを示した進行シートを用意する。<br>○話合いのルールを意識することができるように、電子黒板に提示する。<br>○班の話合いが円滑に進むように、司会グループの巡回を促す。<br>○黒板の書記の補助や班の意見を提示しながら全体で共有できるように、タブレットで班の意見を提出させる。<br>○全体での意見交流が活発に進むために、司会グループに指 | 音楽学習発表会スローガン「青春応歌～心を一つに～」を達成するために、個人・全員でできることという視点 |

|  |  |   |
|--|--|---|
| <p>〔柱2〕全体で取り組む練習のルールを決める。</p> <p>6 決定事項の確認</p> <p>7 振り返りを書く。</p> <p>8 先生の話</p> <p>9 終わりの言葉</p> | <p>名させる。</p> <p>○話合いの軌道を修正するために、「思いやり・団結」の視点を意識させる。</p> <p>○司会グループの称賛や、話合いのルールを守ったことへの価値づけを行う。</p> | <p>で練習のルールを、他者と協働して合意形成したり、意思決定したりすることができる。</p> <p>(思考力、判断力、表現力等)</p> |
|--|--|---|

### ① 事前の活動

本学級の学級目標「漸進」には、昨年の学年目標である「前進」をさらに成長してほしいという意味を込めて、「ぜんしん」の漢字と意味をグレードアップさせている。「漸進」自体の意味には、「段階を追って少しずつ成長していくこと」という意味があり、2年生になって慣れが見えてしまうこの時期に日々何かに挑戦し続けてほしいという願いを込めている。

1学期末に、1学期の課題を踏まえて2学期の行動目標を立てる学級会を行い、「メリハリをつける」という行動目標が決まる。2学期が始まり、学級の良いところと課題についてのアンケートを実施し、学級の課題としてメリハリがついていないことを理解させるために学級の背面黒板にアンケート結果を掲示する。司会グループと「なぜメリハリがつかないのか」についての学級会の打合せを行う。学級会を行い、「メリハリをつけられていない原因」と「なぜメリハリをつけないといけないのか」、「メリハリをつけるために個人がもつ考え」、「学級のメリハリがつくために全員で取り組めること」について各班で出された意見を共有した。メリハリをつけることの意味を共有させるとともに、自分自身に向けての取組と、他の人に向けての取組と視点を整理して考えさせることができた。その後、司会グループと各班で出した意見を整理し、「思いやり」と「団結」がキーワードになることを見出す。次の学級会では、音楽学習発表会のスローガン決めを行った。その際、「思いやり・団結」を達成できるようなスローガンであること意識させ、班で発表する際の理由に述べさせるようにした。その結果、「青春応歌～心を一つに～」というスローガンに決まった。

本時の話合いに向けて、司会グループと音楽学習発表会の練習の様子を想像させたところ、様々な課題が想定され、スローガンを立てただけでは達成できないことに気づいた。そこで、ルールを決めればお互いに気をつけられ、声掛けもしやすいという理由で学級会の計画を行った。

### ② 本時

『思いやり・団結』をもつために、音楽学習発表会の練習のルールを決めよう」という議題で学級会を行った。個人・全員という項目で柱立てをしていたが、司会グループの機転により話合いの流れから柱立ての変更をすることになった。個人でできるル

ールを決める際に、「合間にしゃべらずに周りの状況を判断して発言する」というより具体性を含む長いルールか、「発言していい時の状況を判断する」という短いルールのどちらかにすることになった。その際に、「短いルールの方が覚えやすく、誰かしら覚えていて注意できたら『思いやり』や『団結』につながる」と全体で取り組める視点からの意見がでるようになった。そこで、全体ではお互いに注意し合うことを確認し、個人個人が意識してすることとして、「周囲の状況を見て考えて発言する」というルールが決まった。

### ③ 事後の活動

毎回の練習後に、合唱委員やパートリーダーなどから練習の様子の振り返りを行い、良かったところと今後の課題を確認した。また、毎日の帰りのHRの際に、全体で練習の取組の反省を行った。放課後には、合唱委員やパートリーダーとともに、パートごとの練習中の様子も含めて反省をし、学級会で決めたルールにさらに加えていった。音楽学習発表会が終わって、キャリアパスポートでこれまでの練習の取り組み方や自分自身の成長できた所などの振り返りを行った。

## 8 研究のまとめ

本実践を通して、音楽学習発表会の練習のルールを決める学級会で、柱1の「個人でできること」を考える際に、柱2の「全体でできること」の視点にたっても考えることができたことから、一部のできていない人ができるようになればいいという考えから、学級がよくなるために自分たちができることという考えへと変容していったと考える。その結果、自分はできているけど、できていない人がいるからその人ができるために何をすればいいのかという考えから、全員ができるために自分ができることはないかという考えが浸透した話合いができるようになったといえる。よって、音楽学習発表会に向けての取組を考えると、「個人が自らの言動を律する自己指導能力(個人ができること)」と、「個人が他者の言動を律するための働きかけ(全員でできること)」の2つの視点で考え、取り組んでいくことで生徒たちの自治的能力の育成が見られた。

本時のねらいである「音楽学習発表会スローガン『青春応歌～心を一つに～』を達成するために、個人・全員でできることという視点で練習のルールを、他者と協働して合意形成したり、意思決定したりすることができる」において、授業の振り返りの中でアンケート調査を行った。「班の中での話合いも含めて、自分の考えをしっかりと伝えて、一つの考えに絞るのに協力できたか」という問いに対して、「よくできた」と回答した生徒は65.5%、「できた」と回答した生徒は27.6%、「できなかった」と回答した生徒は6.9%であった。また、「自分の意見と他の人の意見を比べて考えることができた」という問いに対して、「よくできた」と回答した生徒は79.3%、「できた」と回答した生徒は20.7%、「できなかった」と回答した生徒は0%であった。したがって、約9割を超える生徒が他者と協働して合意形成することに取り組むことができていた。また、自分の意見と他者の意見を比

較して自分の考えを意思決定することはすべての生徒が取り組むことができた。

事後の活動で振り返りを行い、自分が成長したところの記述を分析した。一番多かったのはルールにも掲げた「周りを見て行動すること」に関する項目であった。周りを見たことリーダーのサポートができたり、メリハリをつけることができたりしたという記述も見られた。「周りを見て行動すること」、「話を聴く態度」、「周りへの声掛けや注意」といった一人一人の取り組み方への姿勢への成長を約7割の生徒が感じることができた。また、「協力や結束力」、「恥ずかしくても全力で取り組むこと」といった一人一人の音楽学習発表会への取り組む姿勢が前向きであったことによる学級の雰囲気への成長を約4割の生徒が感じることができた。

【表2】音楽学習発表会前後で生徒が成長を感じたところ

|             |       |                      |       |
|-------------|-------|----------------------|-------|
| 周りを見て行動すること | 34.3% | 話を聴く態度               | 21.8% |
| 周りへの声掛けや注意  | 18.8% | 協力や結束力               | 15.6% |
| リーダーとしての伝え方 | 9.4%  | 恥ずかしくても<br>全力で取り組むこと | 25.0% |
| 強弱の付け方      | 3.1%  | 楽しむこと                | 3.1%  |

## 9 成果と今後の課題

- 学級の課題を考える際に、「個人が自らの言動を律する自己指導能力(個人ができること)」と、「個人が他者の言動を律するための働きかけ(全員でできること)」の2つの視点で考えることで、学級の自治的能力の育成につながった。
- 2つの視点での学級会を継続していくことで、他者と協働して合意形成したり、意思決定したりする力の育成につながった。
- 周りを見て自分自身の言動を見直すことができた生徒は増えたが、他者への働きかけができる生徒もいればできなかった生徒もいた。お互いに声掛けをし合える人間関係を今後も作っていく必要がある。
- 生徒の成長をみとる際に、事前に話を聴く態度や声掛けなどがどれだけ日頃できているのかを可視化させ、事後にどれだけ成長できたのかを実感させたり、毎日の振り返りを行うことで毎日自分の目標をもって取り組むようにすれば、生徒が自分自身の成長を多様な視点からとらえることができたと考える。

## ◎ 参考文献

文部科学省 平成29年 中学校学習指導要領解説特別活動編